平成30年度岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【2月募集】入学試験問題

講　　座	国際比較経済、経済理論・統計、政策科学、経営学
プログラム	東アジア中核人材育成、政策実践、地域公共政策
専門科目	経済理論・政策（マクロ経済学）

以下の問に解答しなさい。

問　(1)から(3)の問題のすべてに解答しなさい。

(1) IS－LM 分析において、政府の財政支出が増大したときの所得（GDP）への効果を説明しなさい。このとき、投資の利子弾力性の大きさとその効果との関係を説明に含むこと。また、IS 曲線とはどのようなものかの説明も含むこと。解答に用いる記号等は任意で構わないが、その定義は示すこと。国債発行による財政政策の短期的な効果を前提とし、税については記述しなくてよい。

(2) マクロの生産関数が以下のようなコブ＝ダグラス型であるとする。

$$Y = K^{0.5}L^{0.5}$$

ここで、Y は実質国内総生産 GDP、K は資本ストック、L は雇用者数である。資本の減耗率を δ で一定、貯蓄率を s で一定、雇用者数増加率を n で一定とする。また、１人あたり GDP を $y = Y/L$ とする。資本装備率（あるいは資本／労働比率）$k = K/L$ の成長率は、

$$\frac{\Delta k}{k} = \frac{\Delta K}{K} - \frac{\Delta L}{L}$$

である。この時、新古典派成長理論における k の定常状態を図とともに説明しなさい。

(3) 資料１を読んで、以下の(3a)と(3b)に答えなさい。

(3a) 下線部（A）に「成長率が高まらない背景を需要面からみると、国内総生産（GDP）の最大需要項目である家計の消費が低迷していることが見逃せない」とあるが、このことを記事の主張に基づいて説明しなさい。

(3b) 下線部（B）に「将来不安を払拭するには、政府が責任ある形で説得力のある税・社会保障のプランを明示し、それを前提に消費者が長い目で見た生活設計を組み立てられるようにすることが必要だ。」とある。このことをライフサイクル理論のモデルを提示した上で、そのモデルを用いながら説明しなさい。

資料１　アベノミクス５年(中)消費回復へ将来不安払拭を
税・社会保障の将来像示せ
吉川洋・立正大学教授　山口広秀・日興リサーチセンター理事長

（出典：2017年12月1日付　日本経済新聞朝刊）

以上